

循環経済機械設備、名産に

埼玉
活躍企業



廃プラスチックのリサイクルシステム装置の製造販売を行う日本シーム(川口市)。木口達也最高経営責任者(CEO、46)は、サーキュラーエコノミー(循環経済)に資する機械設備を埼玉の名産にしたいと力が入る。

企業理念は

「当社の製品は粉碎機を中心としたプラスチックを再生材にする中間工程を担う機械となります。機械の力で廃棄されたプラスチックを蘇らせ再利用できる状態にできます。プラスチックは便利で丈夫ですが、地中に埋めることは廃棄処理を先延ばしにし、燃やすことは大気汚染や温暖化の原因になります。当社の仕事の質を追求することは、世界の課題の解決に直結します。廃プラを再利用できる環境を創り出し『マシンテクノロジー』で地球を豊かにする。これが企業理念でありミッションです」

現在注力している事業

日本シーム 木口達也CEO(46)



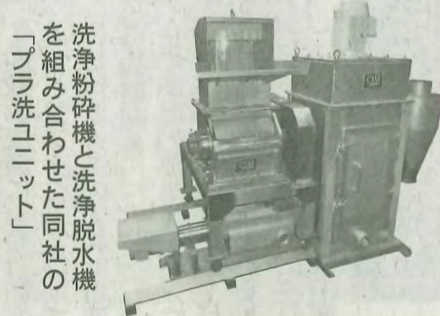
世界最大規模の廃プラスチックリサイクルテストセンターの開設を目指す話す日本シームの木口達也CEO

内容や課題は
「廃棄物処理業者だけでなくプラスチックを製造する会社や、プラスチックを使用したブランドメーカーがリサイクル機械を導入する時代になっています。いま、当社が求められているものは、廃プラの高度な洗浄技術と選別技術です。洗浄工程の一つとしてフィルムからインクを取り除き再利用できる状態に処理する脱墨技術があります。脱墨や、多層フィルムの層間をはがすデラミネーションや脱臭

が今後、廃プラリサイクルに求められると予想しています。日本はプラスチック成型技術が発達し、世界的にみても多層フィルムの取り扱いが多いです。機能性があっても便利ですが、多層フィルムのリサイクルは難しく、多くの課題があります」

「今に至る苦労は、私は、2代目経営者で30歳で事業承継しました。承継当初は自社のことで頭がいっぱいでしたが、当社の事業が世界的な課題を解決すること

に関連することを感じてからは、経済合理性だけでなく社会的な使命感を感じるようになりまし。機械の力で、循環型経済をつくり、世界を変化させたいという思いが強くなっています」



洗浄粉碎機と洗浄脱水機を組み合わせた同社の「プラ洗ユニット」

●会社概要

- 所在地：川口市安行北谷665
- 設立年月：昭和54年5月
- 主な事業内容：粉碎機を中心とした環境機械の開発・設計から製造・販売。廃プラスチックプラントのコンサルティング
- 従業員数：63人(令和6年6月現在)
- 資本金：8304万円(令和6年6月現在)
- その他：令和6年4月、「廃プラスチック類のスクリュウコンベア型洗浄脱水装置」の特許取得